

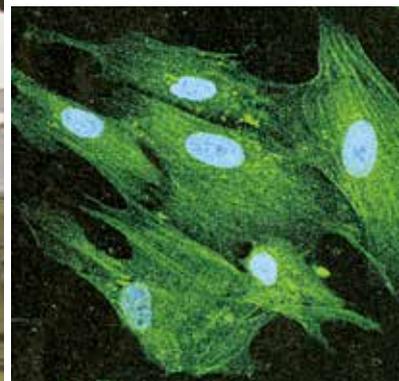
感覺・皮膚・運動部門

- 13 皮膚科
- 14 形成外科
- 15 整形外科
- 16 眼科
- 17 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 18 齒科口腔外科

13

感覚・皮膚・運動部門

皮膚科





は せ が わ み の る
長谷川 稔
 福井大学医学部皮膚科学教授

●プロフィール

1985年3月 福井県立勝山高校卒業
 1991年3月 金沢大学医学部卒業、4月に同皮膚科入局
 1997年4月～金沢大学医学部附属病院皮膚科助手、皮膚科専門医
 1998年4月 医学博士取得
 1998年7月～2001年5月 米国Duke大学免疫学教室（Thomas F. Tedder教授）に留学
 2001年6月～金沢大学医学部附属病院皮膚科助手
 2003年4月～金沢大学医学部附属病院皮膚科講師
 2013年6月～福井大学医学部皮膚科学教授

●所属学会など

日本皮膚科学会（理事）、日本研究皮膚科学会（評議員）、日本皮膚免疫アレルギー学会（理事）、日本臨床免疫学会（評議員）、日本皮膚悪性腫瘍学会（評議員）、日本乾癬学会（評議員）、日本白斑学会（評議員）、日本小児皮膚科学会（運営委員）、厚生労働省強皮症研究班（分担研究者）、強皮症研究会議（幹事）、Asian Dermatological Association（評議員）、Eastern Asia Dermatology Congress（評議員）、米国研究皮膚科学会、米国リウマチ学会、日本リウマチ学会、日本免疫学会など。

●国際雑誌の編集など（現在）

Journal of Dermatology, Frontiers in Immunology

皮膚科学…それは眼に見える皮膚の総合医学

ポリクリを回った学生さんの感想には、次のような内容が少なくありません。『思った以上に領域が広く、皮膚と関連した総合医学だという印象を持ちました。』その通りです！現在でこそ臓器別診療科が増えていますが、皮膚科学は50年以上も前から臓器別診療を行ってきた非常に専門性の高い診療科です。しかも、皮膚と関連した内科的な疾患（膠原病）から、外科的な疾患（腫瘍や皮膚外科）まで幅広く膨大な数の疾患を網羅します。また、皮膚科医は、病理医だけに頼らず、自分たちでも病理診断を行っています。皮膚科学の特徴として、『眼に見える』ということがあります。このため、全身性（内臓）疾患を皮膚疾患から発見することが出来たり、治療効果がはっきりわかることから、非常にやりがいを感じる診療科です。

当教室の目指すもの…

当たり前かもしれませんが、『社会に役立つ医師を育てること』が教室の目標です。個々の医師の能力、目標、価値観は様々ですが、誰も社会的使命感を持っているはずで、膠原病のような難病の患者を救いたい、皮膚癌の患者を手術で助けたい、アトピー性皮膚炎のようなありふれた疾患を良くしたい、高齢者が増えるので褥瘡などの治療に頑張りたい、子育てしながらパートで皮膚科診療を続けたい、研究で頑張りたい世界に貢献したいなどの『若い人たちの夢を叶えられる教室』を作っています。自らが今後の教室の中心となって頑張りたいという冒険心溢れる方にもチャンスがあります。そして、個々の目標は違っても、皆が仲良くチームとなってまとまっていける教室でなければなりません。小さな教室だからこそ、アットホームな雰囲気の中で『医局員、学生、診療・研究スタッフ、患者さん、そして自分の家族も大切にできる教室』です。

子育て世代の医師や年齢の高い方も働きやすい

なんと日本の皮膚科医の約半数は女性、しかも20代では7割近くが女性です！このため、日本皮膚科学会では『皮膚科の女性医師を考える会』を設けて、女性医師が働きやすい環境を作れるように全国的な取り組みを開始しています。女性が多い理由はなぜでしょうか？皮膚科診療では病棟に比べて外来診療が占めるウェイトが高く、当直や夜遅くまでの勤務ができなくても、外来医師として十分な仕事をする事が可能だからです。また、女性に限らず、希望のある男性も育児休暇を取得しています。もちろん、子育てをしながらでも専門医や学位の取得などに頑張してほしいと思いますし、それを支援してまいります。

また、年齢の高い研修医の方には、皮膚科は非常にお薦めで

す。数年間一生懸命頑張れば、一人前の皮膚科医になること、そして専門医の取得も可能だからです。高齢になっても診療が続けやすく、今後の長寿化社会に最も適した診療科の一つです。皮膚科医の魅力のひとつは、非常にQOLが高いということです。

研究・留学

残念ながら、現在は研究に興味のある医師が一般に多くありません。しかし、そういう時代だからこそ、今後は研究もできる視野の広い臨床医が重用視される可能性が高いと思います。また、将来的に医療の国際化が進むと、国際的な資格である学位の有無がこれまで以上に大切になるかもしれません。最初から研究に興味のある人は少ないと思いますが、やってみると夢中になる人が少なくありません。当教室では、臨床の遅れが生じないように、大学院生であっても原則として臨床を続けながら研究を行ってもらいます。最初から難しい内容で挫折することがないように、確実に結果が出るようなテーマ（臨床に直結したもの）や指導体制を有しておりますので、ご安心ください。また、頑張る方には、学位取得後などに留学の機会を考慮しますので、世界へ羽ばたいてください。

当教室での研修や入局を考えている方へ

以前は、外用治療などの対症療法が主体で地味なイメージであった皮膚科ですが、これからは『皮膚科が輝く時代』ではないかと思っています。最近では、アトピー性皮膚炎、乾癬、悪性黒色腫などで抗体などの分子標的薬が使用されるようになり、画期的な効果を示しています。また、皮膚科の診療に限らず、良く効く新薬というのは副作用が多く、薬疹の頻度が高率で、皮膚科医の助けがないと他科の診療にも差し支えるようになっていきます。欧米などの先進国や台湾では、皮膚科は学生の人気が高くなり、皮膚科医の数に制限が設けられているために選抜が非常に厳しいそうです。日本でも、新専門医制度の下で、診療科ごとの医師数の検討が始まっています。今後は皮膚科医になることが難しくなるかもしれません。また、難しい医療器具を使うことが少なく、診断力さえあれば世界のどこでも診察が可能で、開業も最もしやすい診療科のひとつです。特に福井県は皮膚科専門医が最も少ない県のひとつで、皮膚科医が不足しています。『福井県で皮膚科医になるには今がチャンス』かもしれません！ご興味のある方は、お気軽に教室までご相談ください。

医局秘書 黒川：(yasuek@u-fukui.ac.jp)

13 皮膚科

科 長 (研修統括者)

長谷川 稔

出身大学 金沢大学 (平成3年卒)

専門分野 膠原病(全身性強皮症、皮膚筋炎、エリテマトーデスなど)、皮膚炎症性疾患(アトピー性皮膚炎など)

教室の モットー

- ①教育に力を入れ、医局員、研修医、学生を大切にする。
- ②個々の価値観を尊重し、長所や個性を伸ばす。
- ③子育て世代の医師が働きやすい環境を作っていく。

教室・診療の 特色

皮膚科学は、皮膚にあらわれるすべての現象を診療対象としていますが、当教室では以下の分野について、特に力をいれて取り組んでいます。

①膠原病

皮膚はからだの最も外側にあるため、その変化は本人が割りと早く気付くことがあり、皮膚症状から重大な全身性疾患が見つかることがあります。全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、皮膚筋炎などの膠原病は、まさに皮膚症状がきっかけとなりみつかることのある全身性疾患のひとつと言えます。膠原病に精通した皮膚科医ならば、いくつかの軽い皮膚症状の組み合わせから初期の膠原病の可能性を考え、適切なプロセスを経て診断し、早期から治療を開始することができます。膠原病は診断・治療が遅れば時に不幸な転帰をとりうる疾患ですから、患者さんにとってそのような皮膚科医との出会いは大きなメリットがあるといえるでしょう。ただし膠原病の皮膚症状はとても多彩であるため、膠原病がわかる皮膚科医になるためには、しかるべき施設で経験を積む必要があります。長谷川教授の専門が膠原病のため、当教室には他の施設からたくさんの膠原病患者さんを紹介していただいています。症例数が多く、教授から直接指導がうけられますから、当教室で研修を行えば、膠原病について十分な知識と経験を得ることができます。

②乾癬・アトピー性皮膚炎

皮膚はからだの最も外側にあり、病原体やアレルゲンが侵入した場合、炎症をおこしてそれらの進行を抑えようとします。しかし特定の異物の侵入がない場合でも、なぜか皮膚に炎症が起こってしまうことがあります。乾癬はそのような原因不明の炎症性疾患のひとつです。乾癬は日本人の約500人にひとり罹患している頻度の高い疾患で、乾癬の治療に精通している皮膚科医が求められています。いまだ乾癬の原因は明らかではありませんが、病態はかなり詳細にわかってきており、その病態に関わる分子をピンポイントで抑えるバイオ製剤を用いた治療もおこなわれています。当教室では、尾山准教授らが乾癬の専門外来を担当しており、患者さんの症状、ライフスタイルなどを総合的に判断して適切な治療をおこなっています。主に県内の施設から、比較的重症な乾癬患者さんを紹介していただいております。バイオ製剤導入例も増えてきていますので、乾癬の治療に強く、バイオ製剤も使いこなせる皮膚科医を目指すことができます。また、尾山准教授がアトピー性皮膚炎の専門外来を開設しています。最近アトピーにもバイオ製剤などの最新治療が次々と出てきており、重症のアトピーの治療方法を習得することができます。

③皮膚外科

皮膚外科とは皮膚科学の知識が基本となる疾患の手術治療学のことをいいます。すなわち皮膚外科とは皮膚科学の知識全般に十分に習熟した医師が行う外科的治療であり、単に手術手技だけを指すではありません。別の言い方をすれば、一つの疾患に対する的確な診断(臨床診断、ダーモスコピー、病理組織診断を含む)、外科的治療、術後補助療法(免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬、化学療法、放射線療法)、さらには終末期治療まで含めた包括的な皮膚科治療学ともいえます。具体的に扱う疾患としては皮膚悪性腫瘍が主なものになりますが、壊死性筋膜炎などの重症感染症や熱傷、皮膚良性腫瘍の診断から治療まで多岐にわたります。当教室には主に県内の施設から多数の症例を紹介していただいております。飯野講師を中心に精力的に皮膚外科治療に取り組んでいますので、十分な手術手技を身に付けることができます。

④レーザー治療

皮膚は体の最も外側にあるため、その変化は本人だけでなく、周りの他者にも認識されます。茶あざ(扁平母斑など)、青あざ(太田母斑など)、赤あざ(血管腫)は基本的に自覚症状はありませんが、患者さんの多くは整容的な悩みをかかえています。このようなあざの治療は、皮膚が薄く、照射面積が小さくて済む幼小児期に行うのが効果的と考えられています。当教室では井戸助教らが幼小児期の全身麻酔下レーザーを含めた積極的なレーザー治療に取り組んでいますので、レーザー治療に精通した皮膚科医を目指すことができます。

教室員

教室員数

男性 16名 

女性 9名 

(福井大学在籍者 16名)
(関連病院出張者 9名)

主な
研究内容

- (1)膠原病に関連したテーマ
- (2)皮膚炎症性疾患に関連したテーマ
- (3)皮膚悪性腫瘍に関連したテーマ
- (4)遺伝性皮膚疾患に関連したテーマ
- (5)褥瘡に関連したテーマ

研修・勤務
プログラム

1年目	教室勤務（一部関連病院に出向）
2年目	初期研修教室勤務（一部関連病院に出向）
3年目	教室勤務（一部関連病院に出向）
4年目	教室勤務（一部関連病院に出向）
5年目	教室勤務（一部関連病院に出向）
7年目 以降	以降皮膚科専門医（5年の皮膚科研修終了時）を取得。 大学勤務、一般病院勤務、開業など、本人と相談して決めていきます。 希望者は指導専門医（皮膚悪性腫瘍、美容レーザー）や他の専門医（アレルギー）を取得。 大学院入学時期は、本人との相談に応じます。

関連病院

福井県済生会病院 (福井市)	福井赤十字病院 (福井市)	福井総合病院 (福井市)	福井勝山総合病院(JCHO) (勝山市)	市立敦賀病院 (敦賀市)
-------------------	------------------	-----------------	-------------------------	-----------------

他に8つの病院。県内のみならず近隣の県からも医師派遣の要請が沢山ありますが、現在は人員不足のために応えられていない状況です。

研修目標
および
研修内容

- コースI：医学一般**
- 1) 健康管理、予防医学
皮膚科の専門医として必要な遺伝学、精神衛生、公衆衛生、防疫などについて理解し、実施できることを目標にする。
 - 2) 医療に関する法律、医療問題全般についての知識
皮膚科専門医としてのみならず、臨床医として法律的に適正・健全な医療を行うため、また、医療事故防止および医療事故対策を適正・円滑に行うために遵守すべき必要法規ならびに日本皮膚科学会に関する規約を知悉する。
 - 3) 健康保険制度と保険診療についての知識
我が国の健康保険制度の現状を理解し、保険診療についての正しい知識を得て、実施できることを目標とする。
 - 4) Evidence-based Medicine (EBM) と治療ガイドライン
EBMの考え方、臨床医学や予防医学での活用について正しい知識を得る。また、EBMから導かれた治療ガイドラインの作成法について知る。
 - 5) Quality of Life (QOL)
QOLの意味するものとEBMに基づいた疾患別QOL評価の意義について正しい知識を得る。
 - 6) インフォームド・コンセントとカルテ開示、セカンドオピニオン
インフォームド・コンセント、カルテ開示およびセカンドオピニオンの意義を医師の立場からだけでなく、患者の立場からも理解する。

コースII：皮膚科学・総論

1) 構造と機能

皮膚（および粘膜）の構造を分子（遺伝子）・細胞・組織・肉眼の各レベルにて機能と関連させて理解するとともに、部位による形態の差異（例：皮膚紋理、角層、付属器、皮下脂肪の量など）、および加齢（成長と老化）や環境（例：紫外線暴露など）による変化を理解して、人体最外表器官としての重要性を認識する。

2) 病態生理

細胞生物学・分子生物学・生理学・生化学・免疫アレルギー学などの基礎知識の上において、皮膚科医にとって重要な皮膚の病態生理を認識する。また、放射線生物学、光線生物学、微生物学、遺伝学などの進歩を皮膚科学に十分に反映させる。

3) 診断・検査

皮膚疾患の診断を正確に行うために発疹学を修得し、一般のおよび皮膚科の検査法を理解し、さらに皮膚病理組織学の基本的事項を修得する。

4) 治療

皮膚疾患に対する適切な治療法の基本的事項を説明し、主要な治療法を実施する。

コースIII：皮膚科学・各論

コースI、IIの研修を基礎として、各種の皮膚疾患全般について必要な知識・技術・態度を修得し、実際の診療に当たって個々の症例に応じた適切な診断・治療・指導を独力でを行い、専門医としての実力が発揮できるようにすることを目標とする。

研修項目

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| (1)皮膚炎・湿疹 | (20)褥瘡 |
| (2)紅皮症 | (21)色素異常症 |
| (3)蕁麻疹 | (22)母斑と母斑症 |
| (4)痒疹 | (23)皮膚形成異常 |
| (5)そう痒症 | (24)遺伝性結合組織病 |
| (6)薬疹 | (25)上皮性腫瘍・神経系腫瘍 |
| (7)血管・リンパ管の疾患 | (26)間葉系腫瘍 |
| (8)紅斑症 | (27)リンパ腫と類症 |
| (9)角化症 | (28)メラノサイト系腫瘍 |
| (10)炎症性角化症と膿疱症 | (29)ウイルス感染症 |
| (11)水疱症 | (30)細菌感染症 |
| (12)膠原病および類症 | (31)真菌感染症 |
| (13)代謝異常症 | (32)抗酸菌感染症 |
| (14)軟部組織（皮下脂肪組織・筋肉）疾患 | (33)性感染症（STD） |
| (15)肉芽腫症 | (34)動物性皮膚症・寄生虫症 |
| (16)太陽光線による皮膚障害 | (35)付属器疾患（汗器官・脂腺・毛髪・爪） |
| (17)放射線皮膚障害 | (36)粘膜疾患 |
| (18)熱傷 | (37)全身疾患と皮膚 |
| (19)皮膚潰瘍 | |

認定医の
取得状況

氏名	職名	認定医指導医等の名称	取得日
長谷川 稔	教授	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医	H8. 10. 1
尾山 徳孝	准教授	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 日本アレルギー学会認定アレルギー指導医	H12. 10. 1 R3. 10. 1
高橋 秀典	福井勝山総合病院 皮膚科 部長	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医	H20. 10. 1
飯野 志郎	講師	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医	H24. 10. 1
宮永 美紀	非常勤医師	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医	H27. 10. 1 R4. 10. 1
小林 知子	非常勤医師	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医	H29. 10. 1 R2. 4. 1
馬場 夏希	助教	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医	R3. 12. 1
笠松 宏至	市立敦賀病院 皮膚科医長	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医	R3. 12. 1
長谷川 巧	医員	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医	R5. 4. 1

教授からの
メッセージ

我が国の皮膚科学を創設し、日本皮膚科学会を開いた元東京大学皮膚科教授の土肥慶蔵先生は、世界的にも皮膚科医であれば知らない者はいないくらい有名です。実はこの土肥先生は、越前府中松原（現福井県武生市）の出身です。皮膚科学の神様を生んだこの福井県から、多くの素晴らしい皮膚科医を輩出したいと思います。最後に、東京大学の退職演説で土肥先生が学生に述べられた言葉の一部を紹介します。『人間の運命の一寸先は闇である。然し、努力の頭上にはいつも明星が光る。一にも努力、二にも努力であり、職務に忠実であれ、是が人間出世の最大要領である。』どの進路を選んだとしても、皆さん頑張りましょう！

教室員募集
について

定 員：特になし。出身大学は問いません。

選考方法：教室のスタッフで面接を行います。

説 明 会：希望がある都度、説明会を設定します。

連 絡 先：黒川 靖恵（秘書） yasuek@u-fukui.ac.jp
Tel：0776-61-8367

研修医のおかれる雰囲気：

少人数のため、マンツーマンに近い形で、診察や手術を教えることになります。

採用条件：採用時期、卒後年数、性別ないしは出身校による区別・差別はありません。

教室員からのメッセージ：働きたくなる、学びたくなる、オンリーワンの福井大学皮膚科学教室
～私たちはコミュニケーションによる成長支援に取り組んでいます～